

■ 現在（採用後）の仕事内容

私は、令和4年4月に甲府地方検察庁で採用され、検務部門証拠品担当で1年間勤務した後、令和5年4月から捜査公判部門事件管理担当に所属しています。

証拠品担当では、警察官等から送られてくる様々な証拠品の受入・保管、検察官への貸出、事件終了後の証拠品の返還・処分を担当していました。拳銃や刃物などの危険物、禁制品である覚醒剤や大麻など、普通の生活では触れることのない証拠品に携わることで刺激を受けたとともに、裁判で重要な役割を果たす証拠品の管理に大きなやりがいを持つことができました。

事件管理担当では、検察官が裁判所に提出する書類の点検、裁判の進捗状況や内容の把握が主要業務となります。また、弁護人や通訳人の方の対応、警察官との連絡など、業務は捜査公判に関する広範な事柄に及びます。検察官の捜査公判事務をバックアップする立場にあるので、テレビや新聞で報道される事件の展望を垣間見る機会が多く、大変興味深い仕事です。

■ 採用面接などの体験談

業務の概要と、自分がどのような仕事をしたいかを説明できる程度には、検察庁への理解が必要になると思います。しかし、質問の多くは学業や部活・サークル、アルバイト経験等、面接者自身の性格や経験に関するものでしたので、他官庁や民間企業の面接での慣れがアドバンテージとなりました。面接での問答は、緊張を強いられる場ではありますが、場数を積むことでいくらか余裕を持って臨むことができると思います。

面接の直前は吐きそうなくらい緊張していましたが、いざ始めてみると、面接担当の検察官や事務官の方と話すことを楽しく思うようになりました。自分自身について考察して説明する機会は多くないので、この機に頑張ってみようという心持ちでした。

■ 検察庁で働いてみた感想・職場の雰囲気

「検察庁」というと、犯罪に対処する強面で格式張ったお役所のイメージがありましたが、実際に勤務してみると、そのような堅い印象は払拭されました。

仕事の疑問点等について気軽に質問できる雰囲気があることはもちろんですが、休憩時間にはよく雑談が弾みます。経験や知識を快く披露してくださる方が多く、大事件に携わった検察官やベテランの事務官からは、映画や小説のような話を聞くことができるので興味深いです。一方で、被疑者被告人に対する毅然とした態度、犯罪被害者の方に対する真摯な姿勢を目にすることも多いので、オンオフがはっきりした職場といえます。

■ 国家公務員採用試験受験者へのメッセージ

国家公務員一般行政職試験に合格することができれば、各省庁が所管する多様な分野の中から、皆さんが実際に活躍する舞台を選ぶことになります。どの分野も国家の機能を維持し、国民の生活の基盤となる仕事であることには変わりませんが、是非興味のある分野を見つけて官庁訪問にチャレンジしてください。

世情を映す鏡である犯罪と刑罰に興味がある方は、検察庁の説明会や座談会に足を運ばれることを強くおすすめします。法と秩序、正義といった大きなシステムの前線に加わる面白みとやりがいを見つけることができるかもしれません。

令和4年4月採用 高卒程度試験 20代 女性職員

■ 現在（採用後）の仕事内容

私は、令和4年4月に採用され、捜査公判部門事件管理担当に配属され、令和5年4月から検務部門記録担当に所属しています。

事件管理担当では、裁判で使用する記録の点検、弁護士が記録の閲覧に来た際の対応や被疑者が外国人の場合に通訳をお願いする通訳の先生の手配などを行いました。

私は、専門学校を卒業後に採用されたため、法律的な知識は乏しい状態でしたが、上司の方々に丁寧に教えていただき、業務に携わりながら知識を習得することができました。

記録担当では、記録の保管作業を主に行っています。記録の保管には年数が定められており、その年数に合わせて記録を保管しています。保管年数を誤って取り扱ってしまうことのないように注意が必要な仕事ですが、たくさんの事件の記録にふれることができ、1つ1つの事件の流れなどを詳しく知ることができます。

■ 採用面接などの体験談

面接は、自分の受け答えを評価される場ですが、質問される内容は、例えば、クラス替えの直後、初めて同じクラスになった人に聞かれることと大して変わりはないと私は考えています。「面接官」と考えてしまうため、緊張してしまいましたが、「初対面の人」と考え、意識を変えることで緊張をほぐしていました。

そして、面接では会話をすることがメインだと思うので、自分の趣味の話など自分自身が好きなものの話をする際は適度に笑顔になることで、その場の雰囲気が柔らかくなり、会話がしやすくなりました。

■ 検察庁で働いてみた感想・職場の雰囲気

採用された当初は、とても不安で緊張していましたが、上司の方々が所属している部署に関係なく声をかけてくださったため緊張がほぐれ、落ち着いて業務に取り組むこと

ができました。

全体的に暖かい雰囲気なので、仕事の中でわからないことがあったときにも質問しやすく、とても働きやすいです。

■ 国家公務員採用試験受験者へのメッセージ

私は、元々は検察事務官を強く志望していたわけではありませんでした。

検察庁の業務説明会に参加したのも、「働きたいから」というよりも「どんな仕事をしているのか気になるから」という軽い気持ちできっかけでした。

しかし、説明を受け、検察庁で働くことで普段得ることのできない法律的な知識を得られることに魅力を感じたため、官庁訪問に参加し、検察庁の雰囲気が私の想像よりも柔らかくアットホームな職場だと感じ、検察庁で働きたいと考えるようになりました。

現在、国家公務員を志望している方々の中には、すでに希望の官庁がある方や不安を抱えている方など様々な考えの方がいると思います。些細なきっかけでも業務説明会や官庁訪問に参加することにより、自分が想像していなかった官庁に興味を持ち働きたいと感ずることもあるかもしれません。ぜひ、積極的に行動してみてください。

受験者の方々が、自分が一番魅力を感じた場所で働くことができることを祈っています。